

令和 8 年度第 1 回千歳市文化財保護審議会 会議結果

1 開催日時 令和 8 年 8 月 12 日（水）14:00～16:00

2 会場 千歳市役所第二庁舎 2 階 5・6 会議室

3 参加者

・参加委員 横井直倫会長、中原直彦副会長、
常世田勝司委員、渡辺日朗委員、本村信人委員、袖岡淳子委員、
東方弘美委員、荒金利佳委員、中沢祐一委員、大江克己委員
[欠席者なし]

・教育委員会 佐藤教育長、高橋教育部長、大西教育部次長、
直江埋蔵文化財センター長、佐藤管理普及係長、
茅原主任、和田主任、浅野主事、佐藤主事

4 当日の審議会内容

○委嘱状交付（教育長より）

- 1 開会
- 2 教育長挨拶
- 3 委員自己紹介・職員紹介
- 4 正副会長の選出

会長に横井委員、副会長に中原委員を選出

5 報告（議事進行：横井会長）

（1）昨年度の業務報告及び今年度の取り組み

事務局（保護保存：和田主任、普及啓発：茅原主任）より資料に沿って説明し、質疑応答

（2）美々貝塚の現状と他の貝塚施設について

事務局（直江センター長）より資料に沿って説明し、質疑応答

6 協議事項（議事進行：横井会長）

（1）市指定文化財の諮問及び答申

意思形成過程に係る審議のため、非公開

7 閉会

5 主な質疑応答・意見

【報告（1）昨年度の業務報告及び今年度の取り組み：保護保存】

（横井会長）

出土遺物の保存処理について、内閣府国庫補助事業として、令和7年度から3年間の予定で行っているという話であった。保存処理未実施の資料380点のうち、令和7年度は14点処理したとのことだが、残りまだ300数十点ある。どのあたりまで3年間の間に処理できる予定なのか。

（和田主任）

380点は大きな数字である。その中から、触ると崩れてしまうような緊急性が高い資料、あるいは大形で自前では保存処理が難しい資料を厳選して、処理を進めていく形になっている。

（本村委員）

上長都の収蔵施設を整理しているということで、以前にも聞いたが、収蔵している資料の廃棄は一切考えていないということでしょうか。■ ※本審議会協議事項となっている石棒の所有者）が気にかけていたので、確認までに質問する。

（和田主任）

ご指摘の通り、膨大な量を収蔵施設に保管しているが、全て遺跡から出た遺物である。そのため、整理をして、保管を継続していくというのが基本的な考えである。

（常世田委員）

遺物の保存処理については、アイヌ政策推進交付金を使用しているという考えでよろしいか。また、いくらぐらいかかっているのかわかれば教えてほしい。

（直江センター長）

埋蔵文化財関係の事業全体で500万円程度の事業費となっている。そのうち、保存処理に420万円ほど使用した。その他、保存処理後に適切な環境で保管するための、防湿庫を購入している。

【報告（1）昨年度の業務報告及び今年度の取り組み：普及啓発】

（中沢委員）

キウスの来訪者数が 8,700 人ということで、これは過去最高と考えてよいのか。

（茅原主任）

過去最高は、世界遺産に登録された翌年の令和 4 年度で、1 万人を超えていた。その後 6,000 人程まで減少したが、ガイダンスセンターがオープンしたことで、8,000 人を超えた。

（中沢委員）

埋文センターの来館者数が 5,000 人弱というのは少ない印象を抱いた。キウスを訪れた 8,000 人のうち、5,000 人弱しか足を運んでいない。キウスの来訪者にさらに学習したい、知りたいと思わせるとともに、学習意欲のある人が日帰りで埋文センターに行けるような、アクセス性を高める必要がある。現状では、マイカーを持っている人しか行けないため、市がサポートするなどの工夫が必要かと思う。

また、外国人を含む観光客が増加しており、新千歳空港を多くの人が利用しているが、足元の遺跡はあまり知られていない。空港で PR する、空港からバスに乗れるシステムを作るなど、費用は掛かるが、試みを継続することで認知度が高まると思う。

（大江委員）

出前事業は、こういった団体の利用が多いのか。

（茅原主任）

昨年利用があったのは、退職校長会や、町内会（※議事後に実績を確認したところ、令和 7 年度に町内会の利用はなく、アイヌ協会などの利用があった）からの依頼などで、少し小さな会場を依頼団体に用意してもらい、そこでスクリーンを通して講演した。

（大江委員）

大きな団体というよりは、町内会など、地域に密着した団体からの依頼が多いということか。

（茅原主任）

その通りだ。人数は10名から20名弱の団体が多い。

（大江委員）

キウス周堤墓群は様々な学校が見学しているようだが、学年を見ると、バラつきがある。学年によって内容を変えるなど、調節しながら対応しているのか。

（茅原主任）

学校教員から依頼を受けた段階で、学校での学習進度を聞いている。例えば、4年生の「ふるさと学習」の中で、少しキウスを学んだというレベルなのか、6年生で日本史を学び始めたというレベルなのか、最初に聞き取っている。進度や学年に合わせてわかりやすく説明するように心がけている。

キウスのガイドはボランティアガイドに対応してもらうことがあるため、希望票を学校から提出してもらっている。希望票では、縄文のことをもう少し深く知りたい、キウスのことを深く知りたい、世界遺産のことを知りたいなど、学校側の希望を記載してもらう。記載内容に合わせてボランティアガイドが準備をして、わかりやすく説明できるようにしている。

（大江委員）

大変良い取り組みだと思う。様子がよく分かった。

（横井会長）

センターの来館者あるいはキウスの来訪者数をいかに増やしていくかというのは非常に難しい問題だと私も思う。先ほど中沢委員の意見もあった通り、やはり観光客をターゲットにしていくのがいいと思う。個人的には、インバウンド向けの英語のガイドも良いと思うが、可能な範囲で対応してほしい。

個人的な感想として、たくさんのイベントを企画しており、センター職員の苦勞が伺える。取捨選択を繰り返しつつ、継続できるものは引き続き継続してほしい。

【報告（2）美々貝塚の現状と他の貝塚施設について】

（横井会長）

報告を聞きながら、貝層を剥ぎ取って展示する方法が良いと思っていた。しかし美々貝塚は、40 数年前にウレタンを注入して固めている。この状態でも剥ぎ取るとは物理的に可能なのか。

（直江センター長）

現在の美々貝塚の表面は、硬い部分と、ボロボロになっている部分が混在している。剥ぎ取りをするためには、一度表面を剥がして、ウレタンの影響を受けていない部分から剥ぎ取る必要がある。ただし、表面を剥がすことが可能かどうかは現状ではわからない。そういった点も含めて、色々な方に相談しながら進めていきたい。

（横井会長）

応急処置をしてから、1 年程経っていると思う。いつまでも放置というわけにもいけないと思うが、何年以内に、どこから予算を取って、どういうプランで進めていくという具体的な案はまとまっているのか。

（直江センター長）

ほとんど決まっていない。目標としては、5 年程度で方向性を決めて行きたいと考えている。

【協議事項（1）市指定文化財の諮問及び答申】

（意思形成過程に係る審議のため、非公開）